

高度肥満＋糖尿病などへの減量手術治療 安心安全の手術を受けて健康で長生き

消化器外科 齊藤 卓也 佐野 力(部長)

糖尿病内科 近藤 正樹 中村 二郎(部長)

1 肥満症とは

肥満症はひとりではなかなか治りにくい病気です。患者さんの多くは、肥満症が体に良くないことだとわかっているのですが、食べることをやめられないという食生活の悪循環に陥ってしまうのです。肥満症はいろいろな病気(糖尿病、高血圧、心臓病、睡眠時無呼吸症候群、高脂血症、脂肪肝など)の発症や増悪の原因になり、がん発症の関連も報告されています。BMI(Body Mass Index: 図1)という肥満度の指標が高いほど(35以上)死亡率が上がるのはほぼ間違いないとされています。

図1. BMI

BMI (Body Mass Index)	判定	BMI (Body Mass Index)	判定
18.5未満	低体重	30-35未満	肥満(2度)
18.5-25未満	普通体重	35-40未満	肥満(3度)
25-30未満	肥満(1度)	40以上	肥満(4度)

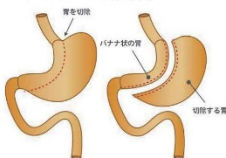
BMI=体重(kg)÷身長(m)×身長(m)

2 減量手術治療

肥満症の患者さんは、ダイエットしてもすぐにリバウンドしてしまうことが問題で、欧米では多くの方が手術を受けています。方法は腹腔鏡を使って胃を小さくする手術(腹腔鏡下スリーブ状胃切除術、図2)で、日本でもこの手術を受ける方が増えています。手術適応はBMI35以上の高度肥満で糖尿病、高血圧、脂質異常症、睡眠時無呼吸症候群のいずれかを患っている患者さんです。この手術は、おなかいっぱい食べても痩せることができる手術ではありません

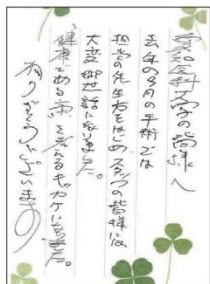
ん。食べてもすぐにおなかいっぱいになる(手術前のような食べ方をすると、苦しくて食べられなくなる)手術です。

図2. 胃を小さくする腹腔鏡手術



3 手術治療の効果

胃を小さくする手術を受けたことで、結果的に体重が減り、上述の糖尿病などの病気も改善します。しかしながら、この手術は、良い食生活を身につけるための「きっかけ」です。良い食生活が身につかない場合は、リバウンドしたり、ストレスを感じることもあり、せっかくの手術が逆効果になることもあります。そのため、患者さん自身の努力がとても重要です(手紙)。



手術治療を受けた患者さんからの手紙

4 専門家がそろう大学病院で安全に肥満治療を

当院では、肥満に関連する専門家が総力を結集し、肥満症の患者さんをできるだけ安全にサポートし治療します。肥満症に関連する総合的な治療を受けていただき、健康になって良かったと言っていたことが、チームのメンバー全員の思いです。

(チーム関連科: 糖尿病内科・消化管内科・肝胆膵内科・循環器内科・睡眠科・精神神経科・消化器外科・麻酔科・運動療育センター・栄養サポートチーム: 図3)

図3. 慶応医科大学病院 肥満症治療チーム

